NAKATSU 中津市 ハピカム

ミライデザイン会議

旧5市町村が“心の合併”を

大分合同新聞社が、「地域やそこに住む人々とのつながりを大切にし、長期的なビジョンを共有しながら一緒に地域の未来をデザインしたい」との思いでスタートさせたプロジェクト・ミライデザイン会議「ハピカム」。第９弾となる中津市編が11月30日、同市役所などであった。豊前海までつながる山国川と、その流域に豊かな大地を抱き、城下町の歴史文化も残る中津市。将来を担う若手リーダーと同世代の大分合同新聞社員らが分科会と総括会議で熱い議論を交わした。「１次産業（コーディネーター・直野剛志）」「観光資源（コーディネーター・山田直彦）」「産業創発（コーディネーター・藤内賢治）」の３テーマで話し合われた分科会の内容を紹介する。総合アドバイザーは山浦陽一・大分大学経済学部准教授、総合コーディネーターは赤坂耕・大分合同新聞社報道部長。

主催／大分合同新聞社　共催／中津市、中津商工会議所、中津市しもげ商工会

協賛／国立大学法人 大分大学、㈱大分銀行、㈱ＮＴＴドコモ九州支社大分支店、日本たばこ産業㈱熊本支店、中津耶馬溪観光協会

中津を テーマパークに

Tomohiro Furuzono
古園 智大 さん

中津市本耶馬渓町、35歳。県内外のホテルで働き、2007年耶馬渓観光開発入社。10年に地域活性化プロジェクト「JoyCollection」設立。

企業は 努力することが 大切

Kanako Suga
須賀 要子 さん

中津市、36歳。フェアトレード大地店長、アースデイ中津代表。県地球温暖化防止活動推進委員。フェアトレードショップとして町づくりをしたい。

いかに住みやすい 街にするか大事

Motoki Sato
佐藤 基喜 さん

大分市、27歳。大分ベンチャーキャピタル投資事業部サブマネージャー。2008年大分銀行入行、中津支店勤務などを経て今年4月より現職。

市全体で リピーター 増やそう

Katsumasa Tabata
田畑 勝匡 さん

大分市、43歳。福岡県出身。阪急交通社大分支店長。九州各地を勤務し、今年4月から現職。大分県内を巡って温泉や食の魅力に触れていきたい。

役所内のつながり 深めたい

Hiroyuki Sasaki
佐々木 洋幸 さん

中津市、28歳。中津市商工振興課。中津北高校から長崎大学に進み、2008年入庁。中津市は地理的に働きやすい場所だと感じている。

何度も訪れる 仕掛けつくろう

Tetsuo Maji
間地 徹夫 さん

中津市、38歳。聖地中津からあげの会事務局長。間地からあげ店代表。結婚できるか心配している。中津市の自慢はやっぱりからあげ。マヂうまい。

創業者の卵を 育てたい

Mitsuru Terashita
寺下 満 さん

中津市、41歳。T・プラン代表取締役社長。産学官連携で電気自動車普及の研究を開始し、2012年に自社開発の「青空コンセント」を発売。

あるものを 評価しながら 強化

Ryosuke Nakahara
中原 良祐 さん

中津市三光、37歳。大分和郷代表取締役。農業者大学校を卒業し、トマト生産に取り組む。地域農業の担い手を増やし、消費者に安心安全を届けたい。

「山国の黒豚」 つくりたい

Miyuki Kajiwara
梶原 美由紀 さん

中津市山国町、38歳。梶原畜産取締役。佐賀県鳥栖市出身。大学卒業後、民間企業に勤め、結婚を機に退社して同町へ。2008年に会社を設立し夫と養豚業を営む。

生産者同士交流 続けていきたい

Tsutomu Eshima
江島 勉 さん

中津市、41歳。中津市農政水産課管理水産係。山国町出身、日田林工高校機械科卒業。中津市の干潟が自慢。最近は表示偽装問題が気になる。

いろんな品種に 取り組みたい

Tetsuya Kawatani
川谷 哲也 さん

中津市耶馬渓町、34歳。お茶の川谷園を経営する茶農家。独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構野菜茶業研究所出身。手もみ茶の技術に優れる。

おもてなしの 態勢が必要

Mayumi Imayoshi
今吉 真由美 さん

中津市、41歳。朱夏代表取締役社長。音楽や語学を学び1996年に帰郷。2007年に朱夏を設立し、美味匠創朱華を開業。夢は城下町中津の再生。

官兵衛効果の 観光客増に期待

Eitaro Kuramoto
倉本 英太郎 さん

中津市、41歳。中津市軍師官兵衛推進室主査。1995年に耶馬渓町役場入庁、今年4月から現職。中津市の自慢は幅広い偉人を創出していること。

自分たちから 行政に 働き掛けを

Akira Nomura
野村 彰 さん

中津市山国町、46歳。工房のむらで2011年からどぶろく製造を始める。中津市の特産物から酵母を取り出し、どぶろくを広めていきたい。

高品質の 6次産品作って

Satoru Kurisaki
栗崎 悟 さん

福岡県出身、59歳。福岡・大分6次産業化プランナー。エムシーズ企画代表。量販店、損害保険会社、食品製造販売会社などを経て現在に至る。

新しいヒント 見つけてほしい

Kenji Tonai
藤内 賢治

1992年入社。社会部、中津支社、別府支社、日田支社を経て整理部次長。46歳。郷土の未来を熱く語った若き中津人たち。思いをぜひ形に。

中津は地域が 活発な印象

Tsuyoshi Naono
直野 剛志

1992年入社。社会部、別府支社、豊後高田支局、宇佐支局を経て地域報道部次長。45歳。高みを目指す若き生産者たちの姿。頼もしさを感じました。

この議論を スタートにして

Naohiko Yamada
山田 直彦

1998年入社。整理部に配属され、現在同部課長。41歳。熱くて冷静な若い力。歴史、文化、自然といった豊かな潜在力を顕在化させる期待大！

総合アドバイザー

Yoichi Yamaura
山浦 陽一 さん

大分大学経済学部地域システム学科准教授。34歳。専門は農業経済学。農村の活性化に関するゼミを主宰し、フィールドワークを中心に県内各地の地域づくりに関わっている。

総合コーディネーター

Ko Akasaka
赤坂 耕

1990年入社。社会部、国東支局、竹田支局、地域報道部を経て報道部長。46歳。海あり、山あり、川ありの多様な地形。社会資本も整い、チャンスは無限。

総括会議の様子は12月20日（金）の朝刊をご覧ください。

ウェブ http://www.oita-press.co.jp　スマートフォン http://www.oita-press.co.jp/h-come/

感動を、
シェアしたい。

夢を共に分かちあう。厳しさを共に実感する。
長い時間を共に過ごし、考え抜き、とことん話し合う。
それも、ひとりの行員とお客さまという関係を超え、何としてもお役に立ちたいという、
執念に近い情熱。アイデアにあふれ、期待に応える提案。
また、ひとりの人間としての信頼。そこで、はじめて、強い絆が生まれる。

やりきること。挑戦すること。諦めないこと。
そして、地域の皆さまやお客さまと、その発展・成功を共に喜び、
「大分銀行で良かった」と感動して頂くこと。

それが私たちの、感動です。

大分銀行